

原子力総合防災訓練を実施しました

3月8日、本店および青森支店等と連携し、原子力総合防災訓練を実施しました。今回の訓練では、地震の発生により原子炉が自動停止し、その後、原子炉を冷却する機能が失われ、原子炉内の水位が低下していくという想定のもと、事態の収束に向けた対応を行いました。

発電所対策本部内では、指揮・命令や情報の共有、社内外への通報連絡などを行ったほか、事象の進展に応じた対応策にもとづく各種実働訓練を行い、対応要員の役割や作業手順を確認するとともに改善点を共有しました。

今後も、さまざまな状況を想定した訓練を行い、非常時における対応力の向上に努めてまいります。

●発電所対策本部運営訓練



事態の早期収束に向けた対応策の検討や社内外への迅速・的確な通報連絡に取り組んだ

●電源確保訓練



電源を失った発電所設備へ電力を供給するため、電源車を接続する作業を行った

●モニタリング訓練



発電所構内に移動式のモニタリングポストを設置し、大気中の放射線量を測定しデータ収集を行った

●注水訓練



冷却機能が失われた原子炉を冷やすため、消防車による注水作業を行った

●アクセスルート確保訓練



電源車や消防車などの移動通路を確保するため、ホイールローダで散乱するがれきを除去した

●燃料確保訓練



電源車や消防車などへ燃料を補給するため、燃料タンクからタンクローリー車へ燃料を移し替える作業を行った

放射線管理区域内における火災消防訓練を実施しました

3月14日、放射線管理区域^{*}内での火災発生を想定した消防訓練を実施しました。

訓練では、火災発生時における通報連絡体制の確認や自衛消防隊本部の設置・運営、地元消防隊の火災現場への誘導などを行い、迅速かつ的確な初動対応を確認するとともに、地元消防署との連携強化を図りました。

※放射線管理区域

法令に定める放射線レベルを超えるおそれがあり、作業者の放射線被ばくが、定められた限度を超えないように管理している区域



自衛消防隊の消火班員に火災の状況を報告し、次の行動の指示を出す消火責任者

所員の安全文化に対する意識を高めました

3月12日、慶應義塾大学大学院の高野研一教授を講師に招き「コミュニケーションと安全文化」と題した講演会を開催しました。

講演では、連絡不足や説明不足など不十分なコミュニケーションが原因で起きた不適切事例を取り上げ、具体的な対策例とともに効果的なコミュニケーション手法について学びました。今後も所員の安全文化に対する意識の高揚に努め、発電所のさらなる安全性の向上につなげてまいります。



相手に伝えるコミュニケーション手法のポイントを解説する高野教授